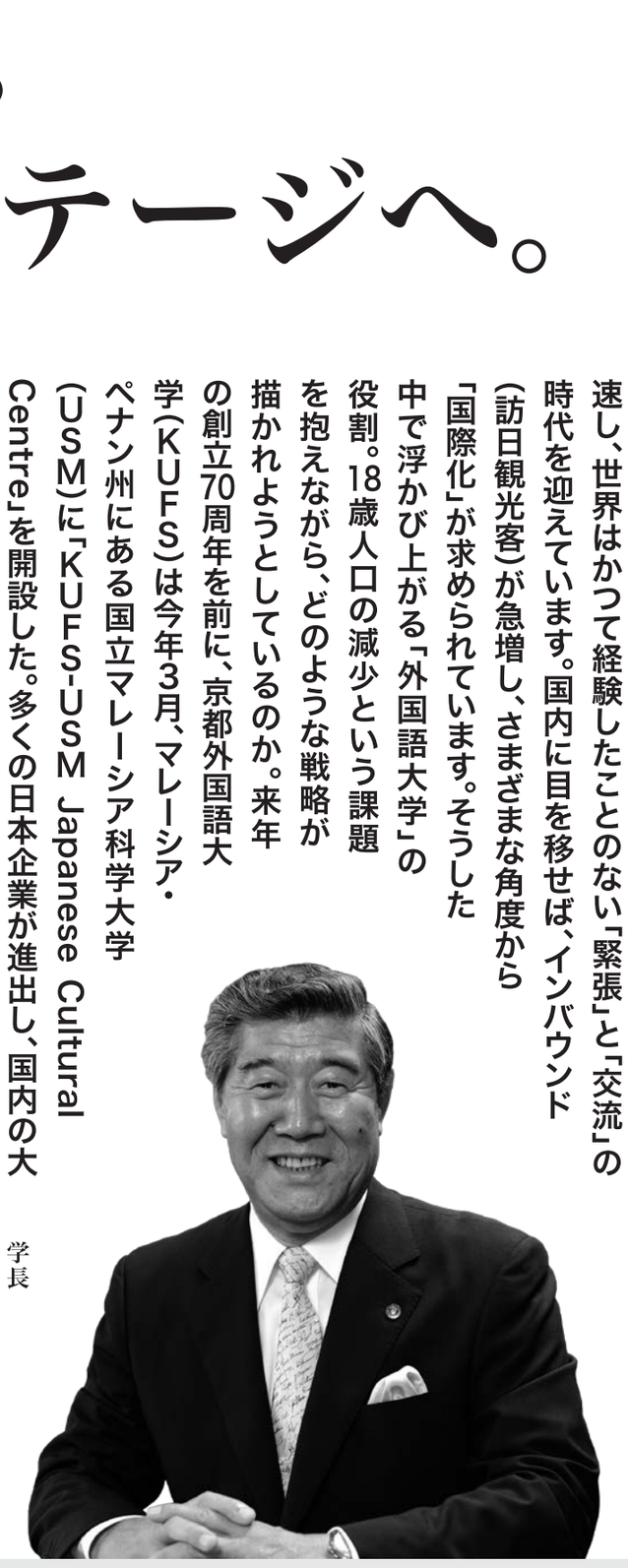
世界の平和と成長に大きな役割を果たす
アジアに新拠点。伝統と革新。
京都外国語大学は、新たなステージへ。

国際情勢の不確実性が増す一方、経済のグローバル化が加速し、世界はかつて経験したことのない「緊張」と「交流」の時代を迎えています。国内に目を移せば、インバウンド(訪日観光客)が急増し、さまざまな角度から「国際化」が求められています。そうした中で浮かび上がる「外国語大学」の役割。18歳人口の減少という課題を抱えながら、どのような戦略が描かれようとしているのか。来年の創立70周年を前に、京都外国語大学(KUFS)は今年3月、マレーシア・ペナン州にある国立マレーシア科学大学(USM)に「KUFS-USM Japanese Cultural Centre」を開設した。多くの日本企業が進出し、国内の大学も注目するマレーシア、さらに成長著しいアジアとの連携を深める意義と展望について松田武学長が語ります。



学長
松田 武

世界の平和と発展
日本社会の将来への貢献
建学の精神を実践する

「PAX MUNDI PER LINGUAS(言語を通して世界の平和を)」という建学の精神を掲げる京都外国語大学。本学は、来年の創立70周年をスプリングボードに、平和に貢献する未来志向の大学として、新たな飛躍を目指しています。その一環として、ASEAN地域との連携を強化する活動拠点として、研究および交流のハブ機能を備えた「KUFS-USM Japanese Cultural Centre(通称京都外大マレーシアペナンキャンパス)」を、マレーシア科学大学と共同で開設することができました。今後は教職員、学生、地域社会の皆様を対象とした言語教育、さらに日本政府機関、進出日系企業ともネットワークし、日本社会との交流の場も提供していきたいと考えています。



京都外大マレーシア
ペナンキャンパスの開所式

脆弱性を克服する人材
世界市民を育成する

このペナンキャンパス開設の意義について、私は3つの角度からの考えを持っています。まず、日本の将来への貢献です。

いちばんの課題として指摘したいのが日本社会の脆弱性の克服です。少し大きなテーマですが、例えば、日本の食料自給率を見ても大きな不安要素があります。国際社会の中で、スローガンや「平和」のムード、願望だけでは、日本人の安全保障を担保することはできません。必要とされるのは、建学の精神の具現化、真の「グローバル・マインド」を持つ世界市民の育成です。



現地学生とのふれあいを通じて
異なる文化や価値観に出会う

本学は、APUCEN(アジア太平洋地域 大学・地域連携ネットワーク)の一員として、東南アジア諸国の大学と協定を結び、積極的な交流を進めています。重視しているのは、学習(留学)、海外生活体験、友情を組み合わせたプログラムを通し、共に働く、協働できる人間関係の樹立、連帯意識の醸成。そして、人類共通の課題、環境、防災、医療などの分野で新たな価値の開発に貢献すること。そうした専門レベルの取り組みを教育・文化面から下支えをする人材を育成することこそが、本学の使命だと考えています。

イスラム社会との相互理解
そして、私立大学としての
強み、独自性の発揮

2つ目は京都にある大学として、京都に、さらに関西にどう貢献するかということです。

私は、マレーシアとの文化交流を進めることで、世界三大宗教の一つ、イスラム教の文化、価値観を紹介し、相互理解につなげたいと考えています。京都は日本の仏教の中心ともいえる地です。キリスト教系の大学も多い。宗教、文化の衝突が深刻な国際問題になっている今、こうした取り組みは非常に意義あるものだと思っています。京都のグローバル化にも役立つと確信しています。

最後は、私立大学である京都外国語大学のアイデンティティに関わる話です。今回、マレーシアの国立大学と日本の私立大学が連携を深めたということに大きな意味があります。重視したのは3つの原則。平等、対等の立場を維持する。双方向の交流。そして、互恵主義、つまりウィン・ウィンの関係づくりです。国家の枠組みを離れて、政治、経済情勢に左右されないパートナーシップを築く。大切なのは干渉や介入を受けず、相互に確認した一定の方針のもとに、安定した運営を継続すること。その可能性に期待しています。



多様な民族の学生が学ぶ
マレーシア科学大学

グローバル・マインドの
習得と実践型教育で
自ら考え行動する人間へ

ここまで述べてきた京都外大マレーシアペナンキャンパス開設の意義は、すべて、建学の精神「言語を通して世界の平和を」につながっています。

本学の三本の柱は、少人数制による「多言語の外国語教育」、「教養(Liberal Arts)教育」、そして「社会貢献活動を通しての実践型学習」です。この三本の柱を機軸に、言行一致・知行合一の教育を行い、真の「グローバル・マインド」を備えた誠実な世界市民を育成する。そして、「座学」から「実践」へ。世界に飛び出し、異文化を実体感することで、国家、民族の枠を超えるコミュニケーション力、自ら考え行動する力が養われるのです。

人間は皆、それぞれに目に見えない長所を潜在的に持っています。教育(education)とは、その可能性を引き出すこと。教師(educator)はその技術者です。私たちが目指しているのは、時代の要請に応える信念と使命感を持ち、平和の基盤づくり、日本の将来に貢献する人材の育成、その可能性の発掘。新たな時代を切り拓く外国語大学として、京都外国語大学は力強く前進し続けます。



建学の精神を表した京都の学舎では
様々な語学・教養の授業が行われる



KUFS-USM Japanese Cultural Centre 設立を機によりフレンドリーな連携

国立マレーシア科学大学学長　オマール・オスマン

私たちの大学、マレーシア科学大学に、KUFS-USM Japanese Cultural Centreが誕生したことは、アジア太平洋地域の大学連携にとって大きな、力強い一歩です。「言語を通して世界の平和を」。その建学の精神の実践に向けて、力を合わせ、フレンドリーな連携を強めましょう。

「京都外大マレーシア ペナンキャンパス」紹介サイト

こちらから
チェック▶

広　告



言葉を超える、こころを育てる。

京都外国語大学
Kyoto University of Foreign Studies
京都外国語短期大学
Kyoto Junior College of Foreign Languages
京都市右京区西院笠目町6　〒615-8558
TEL:075-322-6012　FAX:075-322-6246
http://www.kufs.ac.jp